

特集 ～文化芸術部の祭典～



第43回 全国高等学校総合文化祭

2019 さが総文

開催!!



第43回全国総合文化祭マスコットキャラクター

あさぎちゃん

「羽ばたけ！
あなたの思い
熱い言葉の
響きにのせて」



▲演題と弁士の名前が書かれた、弁士の分身とも言える懸垂幕が緊張感ある雰囲気をつくりだしています

弁士と聴衆が一体となって楽しめるよう、スムーズな進行に取り組みます。
他県から来る高校生や、私たちスタッフの頑張りをみてください！



実行委員長 松本美咲さん
(小城高校 / 多久町)

この夏、文化芸術部に所属する高校生の祭典、「第43回全国高等学校総合文化祭佐賀大会」（2019さが総文）が佐賀県を舞台に開催されます。
日本全国、さらに海外から約2万人の高校生が佐賀に訪れ、文化活動を展開します。
多久市は弁論部門の会場として、大会の準備が進められています。
今回の特集では、弁論の魅力と多久高校から「さが総文」に出場する生徒をご紹介します。

多久市で行われる「弁論」とは、7分間という限られた時間で、自分の考えを聴衆に述べていくもので、内容の論旨と表現で評価されます。
テーマは自由で、自分や家族の病気・障害、さらに社会の出来事や課題など、自身の体験を通して感じたことに向き合い、考えを深めていきます。
大勢の前に話すだけでも、相当な勇気が必要とされますが、中には親しい人にも話せないほどの重いテーマに向き合い、弁ずる生徒もいます。
勇気を振り絞って思いを伝え、受け止めてもらえたという喜びや実感が弁論の醍醐味です。何度も言葉や表現を吟味して練り直し、出来上がった文章は分かりやすく、胸に刺さります。
さらに、声のトーンやスピード、表情、身振り手振りなど自分の全てを駆使して表現される弁論は、いつの間にか会場を一つにします。
今回は、75人の弁士が全国から集い、中央公民館で熱弁を振ります。

弁ずる思い、
届く喜び、拡がる感動、
さあ中央公民館へ！

